

『 Living with you ～つながろう、世界の家族～ 』

ひとりひとりの愛ある行動が、飢餓貧困や戦争・紛争の連鎖を断ち切ります。
世界中の飢餓貧困や戦争・紛争で苦しんでいる方々を覚えて、ぜひ「私から」
行動を始めてみませんか。飢餓貧困で苦しむ方々に目を向け関心を持つこと、「募金」
をすること、周りの人に世界の現状を伝えること・・・
そんな小さく思える一歩が、連鎖のようにして広がっていくと信じています。

たとえば・・・ 【1,000円の支援でできること。】

あなたは1,000円を何に使っていますか。

1回の食事、ゲームセンターで1日遊ぶ、映画館で映画を1本見に行く・・・

おそらく1日で簡単に使えてしまう金額です。しかし、その1,000円がアフリカ
諸国では、非常に大きな力となるのです。



エチオピアでは、主食のインジ
エラ 50枚、卵 76個



ケニアでは、100kg入りトウモ
ロコシ一袋、バナナ 100本



スーダンでは、地域病院での
診察 3回分 (1回3ドル)



主食のお米 5kg (700円)
500mlを20本 (300円)



インターネットでハンガーゼロのホームページを見てみましょう！写真
や動画、詳しい情報を調べて、みんなに教えてあげましょう！

<https://www.hungerzero.jp>



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OOCビル 517号室
愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCAビル 6F
USA
Ainote International c/o Mr. Tom Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605

■郵便振替 00170-9-68590 (一般財団法人 日本国際飢餓対策機構)
■ゆうちょ銀行又は他の銀行からの自動振替 ■クレジットカード、デジタルコンビニ
※支援金は随時受け付けております。

TEL (072) 920-2225
TEL (03) 3518-0781
TEL (052) 265-7101
TEL (510) 568-4939



ハンガーゼロ
Hunger Zero

Child Supporter
チャイルドサポーター

2025
世界食料デー
クイズブック



Living with you

～つながろう、世界の家族～

コンゴ民主共和国から
来たジェロムさんと考
えましょう



子どももおとなも
みんな知って、考えて、
アクションを始めよう！

この世界は、いま・・・

Hunger Zero

世界中で多くの人たちが、さまざまな理由で起こる貧しさのために、食べるものがなくて苦しい生活をしています。食べ物がないと、十分に栄養が取れないので、病気にかかりやすくなり、安定した仕事につくことが難しくなります。そうすると、収入が少ないので、子どもも働かなくてはならず、その子どもは学校に行くことができません。

学校に行けないと、読み書きを学ぶこともできず、働くために必要な技術を身に付けることも難しいので、その子どもたちの将来も貧しくなってしまいます。

世界ではこのように世代を超えて貧しさが繰り返されてしまう状態、「**貧困の連鎖**」が起こってしまいます。



また世界中、特にアフリカではニュースで報じられることのない多くの地域で争いが起こっており、多くの人が避難しながら生活をしています。争いが憎しみを生み、憎しみから新たな争いが生まれ、争いによって大切な人や物が傷つくことで、さらに憎しみが生まれてしまうという、

「**憎しみ・争いの連鎖**」も起こっています。

紛争 ⇔ 憎しみ



世界の飢餓や貧困で苦しんでいる人々と、「隣人」としてつながり、「地球家族」の一員として愛を分かち合えないでしょうか？

クイズ

世界の現状（Q1～Q3）に目を向けてみましょう！

Q4～Q6は、ハンガーゼロの活動地からの出題です。

Q1

世界の飢餓人口はどれくらい？

※飢餓人口：栄養がたりなくて、健康を保つことのできない人の数

- ① 約2.3億人（35人に1人の割合）
- ② 約7.3億人（11人に1人の割合）
- ③ 約12億人（7人に1人の割合）

Q2

世界では、1日に何食分の食料が捨てられている？

- ① 1日1000食分
- ② 1日10万食分
- ③ 1日10億食分



Q3

世界で学校に通えていない子どもたちはどのくらいいる？

- ① 約5000万人
- ② 約2億5000万人
- ③ 約4億5000万人



A1



正解は、②約7.3億人（11人に1人の割合）

栄養が足りなくて、健康を保つことが出来ない人が、世界にはおよそ7億3300万人います。5年前に新型コロナウイルス感染症が流行してから、飢餓人口は1億5200万人増えました。アフリカでは、大陸全体で5人に1人が飢餓に苦しんでおり、特に深刻な状態です。

（FAO、国際連合食糧農業機関より2024年の数字を参照）



A2



正解は、③1日10億食分

世界では、年間10億5000万トンの食品が捨てられています。これは、一人当たり、年間132キログラムにもあたります。スーパーマーケットやコンビニエンスストアでの売れ残り、飲食店や家庭での料理の食べ残しなどが原因になっています。世界で生産されている食料を平等に分け合えば、世界のすべての人が十分に食べられるはずなのに、経済、政治や紛争、輸送などの問題もあって、途上国での飢餓が進んでいます。（国連環境計画UNEPより2024年の数字を参照）



A3



正解は、②約2億5000万人

子どもたちが学校に通えない最大の理由は貧困です。貧困が深刻な国では、10歳になるまでに10人中7人の子どもが簡単な文章が読めず理解できません。貧しいために、子どもも働く必要があったり、学用品を買うお金がなかったり、栄養が足りずに勉強に集中できる状態でなかったりします。また、自然災害に遭ったり、戦争に巻き込まれたりして学校に通えない子どもたちもいます。（世界銀行より2025年の数字を参照、UNICEF、国連児童基金のサイトを参照）



Q4

アフリカのザンビアからの出題です。

なんの写真かな？

- ① 干ばつ
- ② 種まき
- ③ 地雷の除去



Q5

ウガンダからの出題です。

なにをしているのかな？

- ① 栄養の勉強と調理実習
- ② パーティーの準備
- ③ 野菜や果物の販売

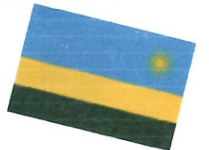


Q6

ルワンダからの出題です。

この大きな黒いものはなにかな？

- ① えんとつ
- ② 食料貯蔵庫
- ③ 水のタンク



飢餓をゼロにするために私たちにできることは？

- ① 食物を大切にして、身近なところから分け合う気持ちをもつこと
- ② 「募金」をすること
- ③ 今日学んだことを人に伝えること
- ④ すべて

A4



正解は、①干ばつ

干ばつとは、長い間雨が降らず土地が乾燥してしまう現象です。アフリカのザンビアではおよそ4年もの間干ばつが続いています。雨が降らないので水が不足し、畑で農作物が育たなくなったり、家畜が死んでしまったりしています。ハンガーゼロは、干ばつに苦しむ家庭に緊急で食料を支援しています。

A5



正解は、①栄養の勉強と調理実習

ウガンダでは、ハンガーゼロを通して、子育て中のお母さんに栄養の勉強と調理実習を行いました。この活動で地域の1,000人以上に食べ物の栄養の知識が広まりました。

また、子どもたちの健康診断を行い、栄養失調の子どもたちには治療を行いました。人々が健康な生活を送れるようになることは、その国や地域の貧困の解決に繋がります。

A6



正解は、③水のタンク

これらは、日本で集められた「募金」が使われて、ルワンダの小学校に設置されました。この中に安全な水が蓄えられています。みなさんの「募金」は、他にも運動場の整備、読み書きの練習をする図書館、子どもたちの親が通う裁縫教室などにも使われています。

A7



正解は、④すべて

飢餓の問題について、遠い国のこのように思うかもしれません。しかし、私たちが「隣人」としてつながり、「地球家族」の一員として愛を分かち合えば、必要な国や地域に食料が届く手助けができます。「募金」をすることで、飢餓で苦しんでいる人々を自立する手助けになります。今日学んだことを人に伝えることで、より多くの人が飢餓の問題と向き合うことができます。このクイズを解いたことも立派なアクションの一つになります！

※国際貧困ライン: 世界銀行は、1日1.9ドル未満の収入で生活する人々を「貧困」と定義しています。

※絶対的貧困: 食料や医療へのアクセスが困難な状態を指し、世界銀行は1日2.15ドル未満で生活する状態を絶対的貧困と定義しています。

※SDGs: 国連の持続可能な開発目標（SDGs）では、2030年までに極度の貧困を撲滅することを目指しています。



世界食料デーは、国連が定めた国際デーの一つで、世界中の飢餓問題に対する認識を高め、食料問題の解決に向けた行動を促す日です。

世界中で様々なイベントやキャンペーンが開催され、食料問題への意識を高める活動が行われます。

日本でも2008年から10月を「世界食料デー」月間とし、NGOや国連機関が連携して情報発信やイベントを実施しています。世界食料デーは、食料問題について考え、行動を起こすための重要な機会です。